

旭川市立大有小学校

指定年度：H25～

児童数：277名

1 包括的な学校改善に向けた取組の概要

① 目標と目的の共有化

学校経営の方針に、「そろえて・つなげて・そだつ」という学校力向上のキーワード及び年度の重点目標には目指す資質・能力を明確にした上で、「見付ける・比べる・実感する」という具体策のキーワードを設定した。

自己目標シートや教職員との面談、学校評価を通して、キーワードをもとに学級経営や校務分掌での取組について振り返る機会を設け、全教職員が目標と目的を共有しながら、評価・改善を図っている。

また、代表者会議・ブロック会議・学年・支援会議等、会議の実効化を図ることで教職員が連携を図りながら目標共有・情報共有・共通行動ができるように進めている。



【「そろえる」取組】

② 校務分掌

重点的かつ組織的な学校運営を進めるために校務分掌に「人材育成コーディネーター」「特別支援教育コーディネーター」「小中連携コーディネーター」「学力向上コーディネーター」「外国語コーディネーター」を配置した。

特に、人材育成コーディネーターを3名配置し、それぞれメンター研修・授業改善・学級経営を担当し、主体的・創造的に人材育成を進めている。

③ 人材育成

「北海道における教員育成指標」及び「旭川市における教員研修の基本方針」を基に『人材育成総合プログラム』を作成している。主に20代の教員を対象としたプログラムAと、30代以上の教員を対象としたプログラムBに分けて作成し、教員の経験年数によって計画的・段階的に研修を進めている。

プログラムAでは、人材育成コーディネーターが中心となり、コース研修を年数回開き、学級経営や授業の改善を進め、実践研究発表会での特設授業公開や研究協議の全体会で司会を担当したりするなど資質・能力の向上を目指している。

また、プログラムBでは、実践的指導力チーム、課題対応・解決能力チーム、連携・協働力チームの3チームに分かれ、テーマごとに研修を行い、学校改善に参画するための力量形成を目指して実践を積み重ねている。



【計画的・段階的な人材育成】

2 取組の成果と課題 (□：成果 ■：課題)

□計画的・段階的・組織的な人材育成

2学期に行った人材育成についてのアンケートでは、「学習指導や学級運営の計画や課題について学年を基盤に組織的に取り組んでいる」という設問に対する肯定的な回答が全体で9割以上となり、特にミドルベテラン層の肯定的な回答が大幅に増えた。

□確実な学力向上・授業改善・学級経営

全国学力・学習状況調査の自己採点では、学年の平均点が国語、算数ともほぼ9割であり、数年来取り組んできた「そろえる指導」や人材育成の取組による授業力向上、よりよい学級経営のための改善が図られてきた成果といえる。

■どの子ども落とさない指導

チームとしての協働・対話をより重視しながら、細かな変化を逃さず、全ての教職員で全ての児童を指導する意識と体制の確立と実行を今後も一層推進していく。

【アドバイザーから】 北海道教育大学 学校臨床准教授 山中 謙司 氏

全国的に教員の世代交代が進む中、本校では若手教員の人材育成で効果を上げています。全職員で「そろえる指導」を目指し、ベテランの経験と知恵を実践とともに継承されています。本校で勤務した若手教員が培った指導力を次の勤務校において普及することを期待しています。